

**大腸癌研究会プロジェクト研究**  
**「炎症性腸疾患合併消化管癌のデータベース作成と臨床病理学的研究」**  
**第8回プロジェクトミーティング議事録**

日時：2023年7月6日14時30分～15時30分

会場：都ホテル尼崎3階（鳳凰 北）およびWEBのハイブリッド開催

委員長：石原聡一郎

出席者（敬省略、50音順）

・現地参加

秋元直彦（日本医科大学）、新垣淳也（浦添総合病院）、石井良幸（北里大学）、石丸啓（愛媛大学）、大内晶（愛知県がんセンター）、岡田一秀（新東京医科大ポンペイ校）、小川真平（東京女子医大）、荻野崇之（大阪大学）、尾崎公輔（がん研有明病院）、落合大樹（帝京大学）、梶原由規（防衛医大）、門松雄一郎（順天堂大学）、亀岡信悟（東京女子医大）、河合雅也（順天堂大学）、川村純一郎（近畿大学）、菊家健太（防衛医大）、吉敷智和（杏林大学）、後藤健太郎（京都大学）、小松更一（東京大学）、小森康司（愛知県がんセンター）、小山文一（奈良県立医科大学）、佐伯泰慎（高野病院）、佐々木和人（東京大学）、佐藤雄（東邦大学医療センター佐倉病院）、山東雅紀（名古屋大学）、品川貴秀（東京大学）、下松谷匠（近江草津徳洲会病院）、杉原健一（光仁会第一病院）、杉本晃裕（高野病院）、須藤剛（山形県立中央病院）、須並英二（杏林大学）、大東弘治（近畿大学）、高見澤康之（国立がん研究センター中央病院、金光幸秀代理）、瀧井康公（新潟県立がんセンター）、田島陽介（新潟大学）、田代恵太（防衛医大）、田中信治（JA尾道総合病院）、問山裕二（三重大学）、豊島明（日赤医療センター）、野口竜剛（がん研有明病院）、肥田侯矢（京都大学）、福長洋介（がん研有明病院）、藤井祐介（京都大学）、藤井能嗣（埼玉医科大学国際医療センター）、藤田文彦（久留米大学）、藤本浩輔（奈良県立医科大学）、松橋延壽（岐阜大学）、前田清（大阪公立大学）、松田圭二（帝京大学）、松山貴俊（埼玉医大総合医療センター）、水内祐介（九州大学）、水島恒和（大阪警察病院）、室野浩司（東京大学）、山内慎一（東京医科歯科大学、絹笠祐介代理）、山田一隆（高野病院）、山本聖一郎（東海大学）

・Zoom参加

池内浩基（兵庫医大）、池端昭慶（慶應大学）、石田文生（昭和大学横浜市北部病院）、伊藤貴博（札幌東徳洲会病院）、内野基（兵庫医大）、大北喜基（三重大学）、笠島裕明（大阪公立大学）、木村英明（横浜市大付属市民総合医療センター）、佐々木慎（日赤医療センター）、仕垣隆浩（久留米大学）、清島亮（慶應大学）、関戸悠紀（大阪大学）、高橋賢一（東北労災病院）、田中慶太郎（大津市民病院）、中島晋（済生会滋賀県病院）、中野麻恵（新潟大学）、根津理一郎（大阪中央病院）、星野伸晃（京都大学）、升森宏次

(藤田医科大学)

【審議事項】

① 後ろ向きデータベースの症例数の集積状況について石原より報告を行った。

UC : 1222 例(47 施設)、CD : 330 例(39 施設)

② 論文掲載状況について石原より報告を行った。

●主解析

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者：野口竜剛、石原聡一郎

**Clinical Features and Oncological Outcomes of Intestinal Cancers Associated with Ulcerative Colitis and Crohn's Disease**

→本研究のデータベースの全体を広く紹介する内容で作成。

→publish: J Gastroenterol. 2023 Jan;58(1):14-24

●副次解析 4つの論文が掲載、石原より概要も含めて報告した。

○施設名：慶應義塾大学

担当者：岡林剛史先生、清島亮先生

**The effect of biologics on the risk of advanced-stage IBD-associated intestinal cancer: A nationwide study.**

→生物学的製剤の癌の進行度における影響を解析

→publish: Am J Gastroenterol. 2023 Jan

○施設名：三重大学大学院医学系研究科 消化管・小児外科学

担当者：山本晃先生、奥川喜永先生、大北喜基先生、問山裕二先生

**Oncological outcomes of Crohn's disease-associated cancers focusing on disease behavior**

→CD 関連大腸癌と炎症のふるまいとの関連を解析

→Publish: Annals of Gastroenterological Surgery. Jan 2023.

○施設名：京都大学医学部附属病院

担当者：星野伸晃先生、上野剛平先生、吉田真也先生、肥田侯矢先生

**Postoperative complications and prognosis based on type of surgery in ulcerative colitis patients with colorectal cancer: a multicenter observational study of data from the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum**

→UC 関連癌に対する手術の合併症と予後に関する検討

→Publish: Annals of Gastroenterological Surgery. Feb 2023

○施設名：大阪大学 消化器外科

解析担当者名：荻野崇之先生、関戸悠紀先生、水島恒和先生

**Crohn's disease associated anorectal cancer has a poor prognosis with high local recurrence:  
A Nationwide Japanese Study**

→CD 関連癌に focus して予後を解析

→Publish: Am J Gastroenterol. Apr 2023

→特にご意見・修正などなし

③ 新規プロジェクトの検討：各施設の担当者より報告を行った。

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者：小松更一

**PSC 合併 UC 患者における UCAN の臨床病理学的特徴に関する研究**

欧米と比較して PSC 合併 UC が本邦では少ないため、本邦における PSC 合併 UC 患者における発癌についての検討を行う。

PSC 合併 UC 関連癌患者 25 例、非合併 UC 関連癌患者 624 例を比較。

癌合併までの罹病期間は PSC 合併患者のほうが有意に短かった。

癌の発生場所は PSC 合併では右側の癌が多く、PSC 合併 UC 関連癌では右側、左側、直腸が等しく認められた。早期の癌が多い傾向が認められた。予後については差を認めなかった。

→副次解析の開始について承認いただいた。

○施設名：慶応義塾大学

担当者名：清島 亮先生、岡林剛史先生

**テーマ：IBD 関連大腸癌に対する大腸全摘術の長期予後への影響**

UC 関連癌では全摘が標準術式となっているが、まとまった患者数を用いてのエビデンスは本邦ではない。散発癌に対する内視鏡的切除・部分切除の是非も検討。

UC 関連癌が 815 例、散発癌が 85 例で解析。

大腸全摘は部分切除と比較して有意ではないが予後良好。

UC 関連癌に限定すると、大腸全摘のほうが有意に予後良好であった。部分切除では高齢患者、右側の患者が多かった。

→石原：累積再発率はどのようなイベントでしょうか？大腸の他の部位の癌も含めてい  
ますか？→全て含めています。異時性大腸癌も区別して検討するようにします。

石原：部分切除を選択する理由として進行度を理由として選択する場合もあると思  
いますが、如何でしょうか？→本検討ではそのようなことはありませんでした。

→大阪大学荻野先生：研究期間が長いので時代背景で術式に差などはありますか？

→検討していませんので、その点も検討に加えます。

→副次解析の開始について承認いただいた。

④ 進捗状況報告：各施設の担当者より報告を行った。

○施設名：東京女子医科大学

担当者：谷公孝先生、板橋道朗先生

テーマ：Colitic cancer 症例に対する腹腔鏡手術の有用性

→投稿中。

○施設名：九州大学大学院医学研究院臨床・腫瘍外科

担当者：水内祐介先生

テーマ：Colitic cancer における予後に対する癌局在部位の影響

→BJS に投稿中。

○施設名：兵庫医科大学 消化器外科学講座 炎症性腸疾患外科

担当者：内野基先生、池内浩紀先生

テーマ：炎症性発癌における深達度と組織型の特徴

→JG に投稿中。再解析が必要かもしれません。

○施設名：三重大学大学院医学系研究科 消化管・小児外科学

担当者：大北喜基先生、問山裕二先生

テーマ：クローン病合併直腸肛門部癌における癌診断時年齢の予後への影響

→AGS に投稿し、minor revision。Author を 40 名ほど入れたら多いと指摘されたので、登録症例数の少ない施設の先生方は載せられないかもしれません。

他施設共同研究では著者数を多めに載せることはできます。

○施設名：昭和大学横浜市北部病院消化器センター

担当者：小形典之先生、石田文生先生

テーマ：IBD 関連腫瘍に対する内視鏡治療の現状

→学会発表を念頭に解析中。

→石原：最近班会議から同様のデータが発表されましたが如何でしょうか？

→班会議では内視鏡治療の安全性などに focus したデータでした。本検討では CAC の症例が多いので再燃率などを出せるのではないかと考えています。

○施設名：東海大学

担当者：山本聖一郎先生

テーマ：UC 癌化症例における病悩期間による特徴の違いの解析

→draft 作成、今後回覧予定です。

○施設名：帝京大学 外科

担当者：松田圭二先生

テーマ：潰瘍性大腸炎関連癌における術後補助化学療法の現状と成績を明らかにする

→Stage II, III では予後に差がなく、Stage IV では補助化学療法で予後良好という結果が出ました。今後論文執筆予定です。

○施設名：東北労災病院 大腸肛門外科

担当者：高橋賢一先生

テーマ：クローン病関連小腸癌の臨床的特徴についての検討

→本検討のデータをもとに、厚労省班会議のクローン病関連癌サーベイランスのガイドラインの発表準備中です。

小腸癌については論文執筆中です。AGS へ投稿を考えています。

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者：小松更一

テーマ：炎症性腸疾患合併/dysplasia における臨床病理学的特徴の時代的変遷に関する検討

→論文執筆中。

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者名：品川貴秀

テーマ：潰瘍性大腸炎関連若年者大腸癌の臨床病理学的検討

→前回大腸癌研究会で発表した内容で、執筆中です。

○施設名：慶応義塾大学

担当者名：岡林剛史先生

テーマ：背景の大腸炎が UCAN の予後に与える影響について

→今年の大腸肛門病学会に発表予定、抄録回覧済。データは前回と変わりません。

⑤ 前向きデータベースについて、石原より集積状況について報告を行った。

データ集積状況：UC 147 例、CD 33 例 （資料作成時の集積数）

⑥ 今後の予定

副次解析は随時募集しております。事務局までご連絡ください。

前向きデータベース収集も継続しております。よろしくお願いいたします。

2023年7月17日

石原聡一郎

事務局：東京大学腫瘍外科

品川貴秀、野口竜剛、津島辰也、小松更一